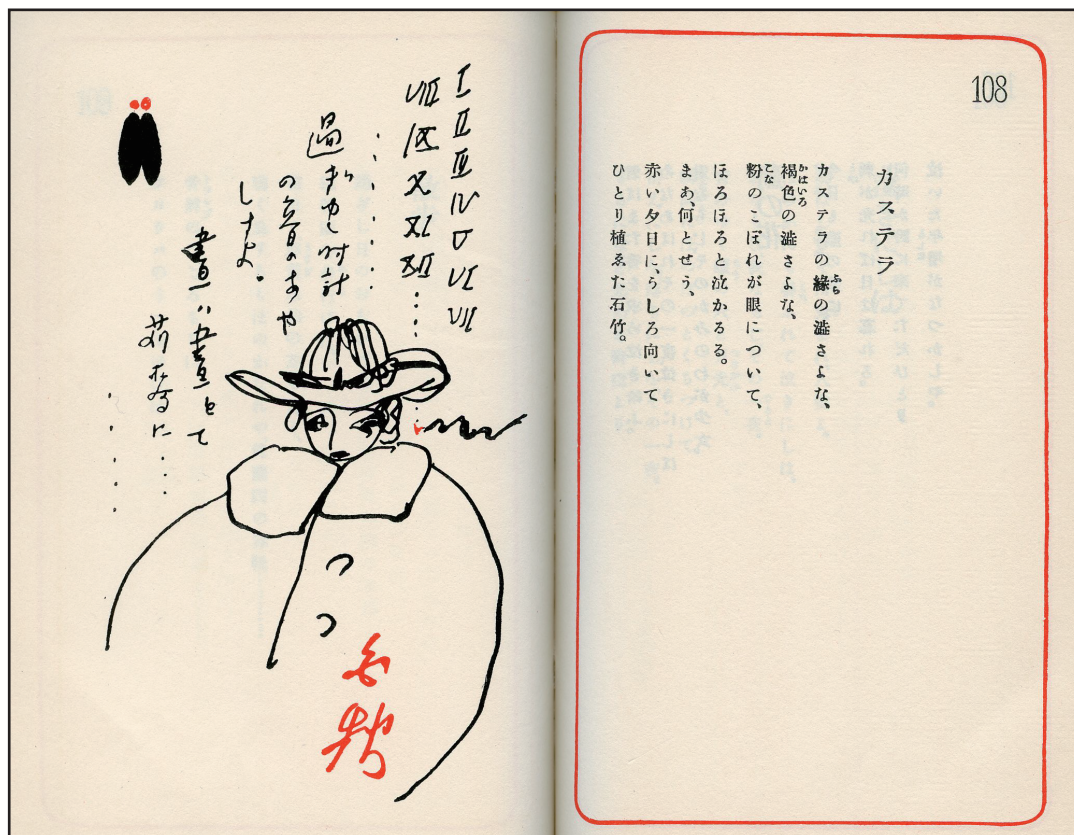


水曜日に連続開講！

# アート・ディレクターとしての 北原白秋



北原白秋 詩集『思ひ出』（1911年） 詩・挿画とも北原白秋

当館学芸員による連続講座を開講します。今回のテーマは「アート・ディレクターとしての北原白秋」。詩集『思ひ出』などで知られる近代詩の巨匠・北原白秋（1885-1942）が、美術の分野でも個性を発揮し、ユニークな仕事を行っていたことを、彼の業績を辿りながら明らかにします。晩秋から初冬にかけて4回連続で講演を行います。奮ってご参加ください。

日時：11月22日（水）、11月29日（水）  
12月6日（水）、12月13日（水）  
各日午後2時～3時30分  
（全4回・1回のみ参加も可能）

講師：橋秀文（当館企画課長兼普及課長）  
会場：神奈川県立近代美術館 葉山 講堂  
※事前申込不要（当日先着70名）、参加無料  
主催：神奈川県立近代美術館



詩集『思ひ出』より白秋によるカット

## 第1回 11月22日(水) 午後2時-3時30分

「アート・ディレクターとしての北原白秋」

——1908(明治41)年「パンの会」の時代の北原白秋

## 第2回 11月29日(水) 午後2時-3時30分

「北原白秋 視覚の変遷」

——装幀・挿画の制作から絵画作品の鑑賞へ

——詩集『邪宗門』、詩集『思ひ出』、歌集『桐の花』から詩集

『水墨集』へ

## 第3回 12月6日(水) 午後2時-3時30分

「北原白秋：異国趣味から西洋への誘惑へ」

——潜伏キリシタンから聖フランチェスコへ

——訳詩との関係：『海潮音』、ボードレールなどへの関心

## 第4回 12月13日(水) 午後2時-3時30分

「再度、アート・ディレクターとしての北原白秋」

——白秋と萩原朔太郎、恩地孝四郎らとの交流

——総括としての日本近代の装幀、挿画について



詩集『思ひ出』より 白秋による挿画



詩集『思ひ出』表紙 白秋による装幀

## 北原白秋 略年譜

- 1885(明治18)年 1月25日、福岡県山門郡沖端村やまと おきのほた(現在の柳川市沖端町)に生まれる。
- 1904(明治37)年 早稲田大学英文科予科に入学。
- 1908(明治41)年 木下杢太郎、吉井勇ら詩人や石井柏亭、山本鼎ら画家と「パンの会」を結成。
- 1911(明治44)年 詩集『思ひ出』を刊行。
- 1912(明治45)年 人妻松下俊子との恋愛関係で、市谷未決監に拘束される。無罪免訴。
- 1913(大正2)年 三浦半島の三崎に転居。
- 1918(大正7)年 小田原に転居。
- 1923(大正12)年 詩集『水墨集』を刊行。
- 1942(昭和17)年 11月2日、死去。



北原白秋